



卷頭特集

卒業生に贈る言葉

学長 高松 研



負の側面だけを捉えるのではなく
振り返り、飛躍の機会に

—「コロナ禍で卒業生を送ることとなつた令和3年。学長からメッセージをお願いします。

**常に社会の一イズを捉え
学び続け、変革を起こし
未来社会を切り拓く創造者として
活躍してほしい**

現状に満足しない
正解のない問題に
チャレンジする「研究マインド」

—社会人生生活を送る上で必要な心構え、身につけておくべきスキルについて、アドバイスをください。

VUCA（ブーカ）とは、元々は軍事用語として発生した言葉のようですが、2010年代に入り、「先行きが不透明で、将来の予測が困難な状態」を意味する用語として、ビジネス界で使われるようになりました。Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）の頭文字をとった造語です。地震、地球温暖化に伴う気候変動や異常気象、台風などの自然災害、そして今般の新型コロナウイルスの流行など、予測が困難な事象が次々と起っています。これらに対する国際社会の取り組み、それを支える国際政治も先行き不透明です。今が人類の歴史の中でも、とくに不確実性が高まっている時期であると思います。このような予測困難な状態を乗り越えていくためには、今を変え、未来を変えなくてはなりません。過去の経験の延長だけで解決策が出てくるものではありません。現状に満足しない、正解のない問題にチャレンジする「研究マインド」が必要です。

卒業は大学との 新たな協働の始まり

—2025年の創立100周年に向けて、卒業生には母校どのように関わり続けてほしいとお考えでしょうか。

本学では、2025年の100周年に向けて、卒業生には母校どのように関わり続けてほしいとお考えですか。

大学は、学問を究めるための、学生、教員、職員からなる組織ですが、これに加えて卒業生も含めた一つの共同体、「ミュニティ」です。本学には、医学部東邦会、薬学部鶴風会、理学部鶴風会、看護同窓会があり、これらの組織では、分野を超えた卒業生の交流を推進しています。専門性や年齢を超えた交流は、皆さんのが学びや研究を継続する

また、予測困難な状態では、問題が複雑に絡み合っており、既存の一つの専門性だけで解決していくことは極めて困難です。他分野の人々と多様な視点から解決策を探ることが必要で、学問分野だけでなく、多様な立場や価値観を持つ人々と積極的に交流することが必要です。「思考の多様性と包摂性」即ち、「複眼的思考」が、これから自然との共生をめざした社会には求められます。

困難があるからこそ
新しいものを
生み出すチャンスがある

—最後に、学長から卒業生に、はなむけとなる言葉をお願いします。

新しく始まる皆さん的人生には、私たちが経験したことのない大きな困難、社会の変化が待ち受けています。コロナ収束後の社会では、情報通信機器が人や物をつなぎ、ロボットや人工知能によって多くの仕事が代替される超スマート社会の到来が加速度的に進みます。また、幹細胞やゲノム編集などの生命科学技術も加速度的に進み、さまざまな臓器の機能はもとより、ブレイン・マシン・インターフェースにより脳の認識・認知機能までもが補完され、生物進化の歴史を一変させる社会の到来が予想されます。まさに本学の建学の精神「自然・生命・人間」に基づいた共生社会、多様性と包摂性の重要性が強く求められる社会です。人と人との触れ合い、生きる力を發揮して、社会と、自然と向かい合うことが必要です。

東邦大学での学びは、これらの皆さん之力となります。常に社会の一イズを捉え、学び続け、変革を起こし、未来社会を切り拓く創造者として活躍されることを期待します。困難があるからこそ、新しいものを生み出すチャンスがあります。一日一生、東邦大学で学んだことをプライドとし、身心ともに健やかで乗り過ぎ人生を歩まれることを心から祈念しています。

卒業生・修了生の皆さん、学部卒業・大学院修了、誠におめでとうございます。皆さんの学びの集大成としてのこの一年、新型「コロナウイルス感染拡大防止のため、緊急事態宣言、キャンパス入構制限など、さまざまな制約と困難の中で、知識・技能の学びを成し遂げられたことに対して、心から敬意を表します。しかし、大学での学びには知識・技能に加え、人と人との繋がり、即ち人間力の醸成が必要です。そのためには、「集まる」「触れ合う」「対話する」というコロナ禍で避けて暮らすことを余儀なくされている3密が必要です。今回の新型コロナウイルスは、軽症や無症状の感染者の多さと、会話や会合といった人ならではの社会活動によって感染が広がります。ワクチン、抗ウイルス薬などの開発は急がれていますが、少なくとも短期的には難しく、新しい生活様式や克服するためのアイデアが求められています。負の側面だけを捉えるのではなく、振り返り、飛躍の機会としていただきたいと思います。